



10月17日(木)に行われた人権参観日には、多数ご参観いただき、ありがとうございました。

参観授業の後の学級懇談会では、普段の懇談では話ができない道德の授業を通しての子どもの様子についてお話することができました。自分や相手のことを大切にする「人権教育」について、ご参加いただいた保護者の方と一緒に考えるきっかけとなったのではないかと思います。その中から、保護者の方の感想をご紹介します。

### 1年生

子どもが生活していく中で、これからいろんな所で人権の問題と向き合う場面が出てくると思いますが、改めて話をするのではなく、お年寄りに優しくすること等、日常の会話の中でも話していきたいなと思いました。

「いじめ」という言葉をストレートに使うのではなく、動物たちの細やかな言葉の表現や、行動等で相手の気持ちや自分の気持ちに気づけるような授業だったので、1年生の子どもたちにも分かりやすく、親やとしても、子どもにどうやって伝えていくか、勉強させられた授業でした。

### 3年生

人権を、身近な出来事に感じました。子育てをしていると自分と同じような価値観、境遇の人と関わることが多く、世間が狭くなりがちです。このような場で話を聞いたり、意見を交えたりできるのは世界が広がるように感じました。

今までセクシャルマイノリティの人と関わったことがなかったので、思っていたより多いという印象を受けました。クラスに2~3人いるとされ、学校での正しい知識の教育の必要性を感じました。家庭でも子どもと話す機会を作りたいと思いました。

### 5年生

「結婚をあきらめる」の理由の中で、「おしょうさんにきつねがついているかも知れない」との意見がありました。考えてもみなかったので、そういう考えもあるのかと思いました。子どもたちの考えはまだ固まっていないので、親の考えを押しつけてはいけないなと思いました。

何気なく使っている「迷信」は、本当に根拠がないかもなあと改めて思いました。題材の「きつねつき」の噂話は、人を妬んだ所から発せられて、あたかも本当のように思われてしまうのは、今もあり得ることだとこわいと思いました。

初めて懇談会に参加しましたが、今日の授業のこと、迷信についての話、自然学校の話、クラスの様子など、先生からいろいろなお話が聞けて良かったです。普段の子どもの様子がわかり参加して良かったと思いました。子どもたち、クラスのみんなが日々成長している事に驚きました。

人権の事だけでなく、普段の子どもたちに対する悩み等も聞けて、それに対する答えも教えてもらえて、すごく心が軽くなりました。参加して良かったです。

今回、知っている方があまりいない中で、いろいろな意見を言えてとても楽しかったです。みんな悩みは一緒に共感し、意見をし、どうしたらより良く生きていけるのか話し合えてよかったです。みんなそれぞれ人の権利を脅かす問題等身近にあり、いろいろ考えさせられました。参加して良かったなと思いました。



価値観がいかに個人的な感覚かということを考えさせられました。個人の意思や価値観などは、他人によって曲げられてはいけないと思います。「自分以外は家族であってもみな違う個人である」というVTRはとても勉強になりました。

クラスの話をしていると、それぞれ十分光る個性をお持ちなので、このままそれぞれの個性を大事に育てていただきたいと思いました。我が子もその中で色々な刺激を受け社会性を学んでくれると思いました。



人権参観の懇談は、いつも構えてしまうのですが、参加していろいろな話ができ良かったです。今まで話したことのない保護者の方との交流も、おもしろくでき、子どもの様子なども聞けて良かったです。

### 2年生

じゃがいもの観察をすることにより、最終的に愛着がわくことを聞いて、なるほどと思いました。一つのこと、物、人に対して多方面から見れば良いところ悪いところいろんなことがわかるんだなと思いました。

どの学年も弱い立場の人の気持ちをしっかり理解して発表できてみんながみんな、この考えを忘れなければいじめはなくなるのだろうなと感じました。

懇談会は初めましての方が多く緊張しましたが企画して下さったゲームのおかげでとても楽しい会となりました。

人によって態度を変える人は大人でもいます。それがよくない事だと言える子供たちが沢山いて良かったと思います。理不尽なことをされても何も言えない子もいると思いますが、気づいた子が注意するなど助け合えるようになれると良いと思いました。

### 4年生

少人数でしたが、それでも考えや価値観の違いを感じ、これがもっと多くの人なら、もっと違う意見があり、それを「自分と違う」と思うのではなく、受け入れることが大切だと感じました。たくさんお話できて良かったです。

学校でも家庭でもまずは、自分から笑顔になれる様ふるまい、行動していくことが人権を大切にする一番身近な方法ではないかと思いました。自分自身を振り返られ、また、他の保護者の考えも聞くことができたいい機会になりました。

関心を持つ事、知る事、知ってもらう事。小さな事ですが、それがなければ始まらないし、またゆくゆくは、それが自分や子どもを守る盾にもなる事があるのだと感じました。そして一人で悩まない…です。

非常に難しいテーマではありましたが、しっかりと考えている姿が印象的でした。考えていたことをクラス全員が発表できる場が設けられていて、良いことだと思いました。「待つこと」や「相手の言葉に耳を傾ける」ことができていると感じました。

子どもたちが、それぞれの体験を思い出しながら、差別について自分の考えを深める大切な授業であったと感じました。昔からの歴史的な構造を知ること、それが今を生きる生活の中でも姿を変えながらあらわれていることに気づくことは大切な力だと思います。

人権学習や修学旅行での学び、それらを「じゃあ自分だったらどうするか」と考えさせるようにしているという先生の言葉を聞いて、考えさせられるものがありました。授業のことや感じたこと考えをあまり言葉に出さなくなっている今日この頃、これも成長と捉えながら、折に触れて親子でしっかり向き合う機会をつくりたいと思いました。

※保護者の方の感想を抜粋して掲載させていただいています。ご了承ください。